

FMC

野菜灌注用殺虫剤

ベジマーク[®] SC

powered by

CYAZYPYR[®]
ACTIVE INGREDIENT



理想の収穫を目指して、
確かな防除で最良のスタートを。



ネギアザミウマ



シロイチモジヨトウ



ネギハモグリバエ

ねぎの重要害虫であるネギアザミウマ、ネギハモグリバエに優れた効果を示します。

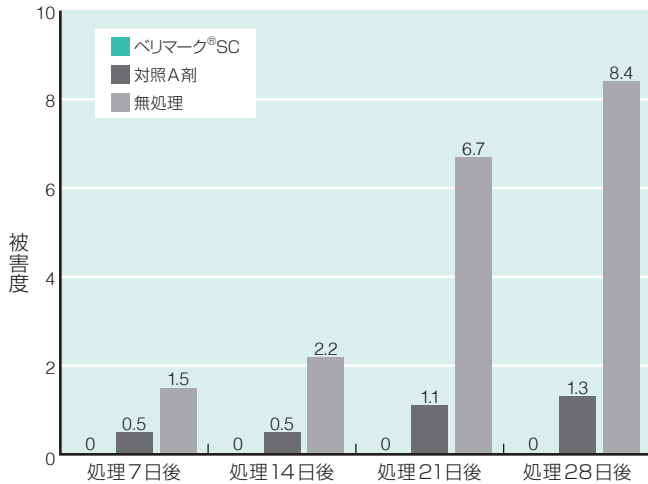
短時間で多くの苗を処理できるので効率的な作業ができます。

苗灌注は作業が天候に左右されにくく、スケジュール通りに仕事が運べます。

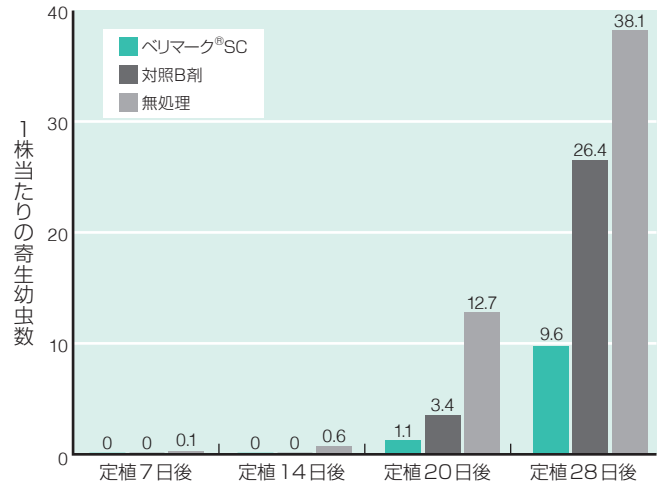
■優れた残効性

ネギハモグリバエ、ネギアザミウマに対して、長い残効が確認されています。

●ネギハモグリバエ育苗期灌注処理



●ネギアザミウマ育苗期灌注処理



2008年 鳥取県農林総合研究所 園芸試験場 弓浜砂丘地分場

【試験概要】 品 種：吉蔵
処 理 日：5月27日
定 植 日：5月27日
処理方法：定植当日(移植約3時間前)に400倍に希釈しジョウロでセルトレイ1箱あたり500ml灌注処理した。
考 察：対照薬剤と比較して防除効果が優り、無処理区と比較して防除効果が高かった。

2017年 社内試験(デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社)

【試験概要】 処 理 日：5月17日
定 植 日：5月18日
処理方法：定植前日に400倍に希釈しジョウロを用いてペーパーポット1枚当たり500ml灌注処理した。
考 察：定植28日後においてもベリマーク[®]SC区は無処理区に比べ寄生幼虫数は低く抑えられていた。また対照薬剤に優る防除効果を示した。

■適用害虫と使用方法(適用表から一部抜粋)

2019年3月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数
ねぎ	シロイチモジトウ	400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4l)当たり0.5l	育苗期後半~定植当日	1回	灌注	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内)
	アザミウマ類 ハモグリバエ類	2000倍	0.5l/m ²	収穫7日前まで		株元灌注	

その他の適用作物：キャベツ、はくさい、ブロッコリー、レタス、非結球レタス、カリフラワー、ほうれんそう、いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、ピーマン、なす、メロン、すいか

△効果・葉害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 薬液調整後はできるだけ速やかに使用してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用はさけてください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 誤飲などのないようご注意ください。
- 使用の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないようご注意ください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。処理器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

水で希釈すると残効が認められることがありますが、品質には影響ありません。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、ベリマーク[®]SCまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系を組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト

- (1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト(<http://www.irac-online.org>)
- (2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

